

青山

AOYAMA

題字／浄土門主総本山知恩院門跡
第八十六世中村康隆猊下

梅窓院二十五世
中島真成

アミーゴの国へ



施餓鬼法要にてお檀家さんに挨拶をする中島住職。

はやいもので、もうお彼岸を迎える季節となりました。皆さんにおかれましては、お変わりなきこととご拝察申し上げます。

さて、皆さんのお手元にこの『青山』が届く頃、私は地球の裏側、ブラジルに行っております。というのも、本年がブラジルの地に浄土宗が開設して五十年目という節目にあたるからです。

今年はずっとサッカーの世界カップが日本でも開かれ、ブラジルが優勝しましたが、競技場はもちろん、各地の大型

スクリーンの前で、多くのブラジル人サポーターが応援していました。この在日のブラジル人の多さにみなさんは驚かれませんでしたか？

もとをたざせば日本からの移民が笠戸丸に乗ってブラジルに向かったのが、国民レベルでの日本とブラジルとの交流の始まりです。一九〇八年六月のことでした。

最初の移民は苦勞に苦勞を重ねたようですが、戦争など色々なことを経て、多くの日本人がブラジルに永住されました。

そして逆に一九八〇年からは、今度はブラジル人が日本に働きに来るようになりました。

こうした両国間の行き来により、日本とブラジルはまさにアミーゴ（友だち）の間柄と言ってもよさそうです。

この両国の長い交流の途中から浄土宗のブラジル開教が始まったわけですが、その変遷に興味は尽きません。

浄土宗はこの南米、北米、そしてハワイを開教地として寺院を建立しています。日系人への教化を中心に信者を増やすことを目的としています。

二世、三世、あるいは四世となり、なかなか大変なようです。今回の団参ではそうした現状を、背景も含め十分に見たいと思っております。

さて、本堂復興の工事ですが、おかげさまで順調に進んでおります。いよいよ来年六月には本堂が完成します。ですが、実際に皆さんにお使いいただくにはさらに半年必要で、観音堂を仮本堂として使わせていただきますので、あらかじめお伝えさせていただきます。

秋の訪れは嬉しい限りですが、夏の疲れが出る頃でもあります。十分お体にはお気をつけ下さい。

合掌

行事予定

秋彼岸法要

九月二十三日（月）

寄席 午後一時～

法要 午後二時～

〔詳細は三面へ〕

日帰り団体参拝

十月十九日（土）

西方寺・忍野八海

※詳しくは同封の参加申込書をご覧ください。

忍野八海で散策をお楽しみ下さい。



念仏と法話の会

十月二十九日（火）

午後一時～ 仮本堂

法話 静岡教区

善龍寺住職 向山瑞成上人



前回の念仏の法話の会にてお説教をされる向山上人。

重陽【菊の節句】—— 9月9日

菊を愛で菊酒を飲んで邪気を祓い長寿を願う

中国から伝わった「重陽の節句」とは、奇数の最も大きい九の重なる9月9日のこと。古来より、中国では九という数字が神聖視されており、日本

にもその文化が浸透されました。平安時代には酒に菊を浸して飲むと長生きできる「菊酒」がこの重陽の節句でよく飲まれていました。「栗の節句」とも呼ばれ、地方によっては収穫祭と合わせて栗飯を炊く風習が残っています。



青山梅窓院史

《真孝先生、逝く》

その九

江戸時代の創建から始まったこの梅窓院史も戦後を迎えますが、何と言っても梅窓院に大きな変化をもたらせたのは東京オリンピックでした。昭和三十九年に開かれたこの世界の祭典は、東京を大きく変化させました。次々とオリンピック道路と呼ばれる幹線が整備される中、梅窓院前の青山通り、国道246号線も大幅に拡張され、梅窓院の境内地が国に買い上げられることになったのです。オリンピ

ハワイ浄土宗教団総長時代の中島真孝師(右)。(1963年11月3日)



ック開催の三年前、三十六年にはすでに工事に着工、当時山門前の、その一部が崩れている石垣がこの拡張のおかげで生まれ変わり、さらに、山門が三十七年に、会館の新玄関が三十九年に、客殿が四十年に完成しました。境内地の買い上げが梅窓院を一変させることとなったのです。

この大事業を成し遂げたのは先代の中島真哉住職で、その大きな体から空気がエンマと渾名された先代中島真孝師はこの時、ハワイの地に赴いていました。

先々代についてはすでにこのシリーズで三回にわたってその足跡をたどってきましたが、師の最後の公的な職務となったのが、このハワイ浄土宗教団の総長就任でした。

現在ハワイには十五の浄土宗寺院がありますが、明治から始まった浄土宗の海外開教はこのハワイを嚆矢とし現在は北米、南米と広がっているのです。

真孝師が赴いた三十六年、そして翌三十七年には五十年、七十周年記念の大法要を迎える寺院があり、その法要にむけての総長就任でもありました。

真孝師のハワイでの生活は四十年までの四年間で、二期の任期満了を七十六歳で迎えた真孝師は帰国に際し、二か

月の世界一周の旅に出られました。

アメリカの大学に学び、また、教育者としての要職就任中にはヨーロッパでの会議にも参加していました。この晩年の、しかも大役を果たしたの旅行はまた違う思いの二か月だったに違いありません。

明治二十二年に埼玉の農家に生まれ、七歳で倉常寺の中島真に師事、僧侶としての人生を歩まれ始めた真孝師は、英語の教師として浄土宗関係の学校で教鞭をふるい、昭和七年には梅窓院の住職に就任。

その後、芝中の校長を始め、東京都をはじめ全国の教育関係の要職を歴任、かたや梅窓院では寺報を発行し、多くの檀家さんに印象深い説教をされ続けました。

そして、戦前戦後の大変な時代を乗り越えた真孝師は、最後の花道ともいえる御忌唱導師を拝命されました。四十六年四月のことでした。

その三年後の四十九年三月三十日、中島真孝師はその八十五年の人生を終え、浄土へと旅立たれたのです。

本紙「読者の広場」の回答者としておなじみで、真孝師、真哉師、現住職の真成師の三代を知る蘆谷副住職は、晩年の真孝師をこう語ってくれました。

「晩年の先々代はもう、自

分の死を受け入れられていて、いつ亡くなってもよい、という心境のようでした。

慌てず騒がず、念仏とともに悠々と余生を楽しまれていたように思えます。」

また最初の出会いをこう振り返られました。

「弟子入りをお願いしに梅窓院に来たのですが、突然、玄関に貼ってあったポスターを指差し、『きみ、このポスター変じやないか?』って。挨拶も交わす前でしたし驚きでしたが、何につけても思われたことを率直に言われる方、我々若い者にも高いところからではなく、同じ目線で話をしてくれました。」

いままも、その面影を慕う檀家さんもいる中島真孝師は、実直に豪快に、そして八十五年の人生を楽しまれ、最後の旅に出られたに違いありません。



先々代中島真孝師、先代真哉師、現住職真成師が揃った在りし日の記念写真より。(右上は現淑徳学園事務長の川添師。)

秋のお彼岸

まもなく
秋のお彼岸を迎えます。
ご家族そろって
ご先祖さまをお参りしましょう。

秋彼岸会法要

九月二十三日(月)

午後一時～ 彼岸寄席

午後二時～ 秋彼岸会法要

梅窓院 仮本堂にて

彼岸塔婆お申込み方法

同封のハガキに必要事項を
お書きの上、九月十三日(金)
必着でお申込み下さい。
塔婆回向料は一本七千円と
させて頂きます。
同封の振込用紙でお支払い
頂くか、当院受付までお持ち
下さい。

秋彼岸寄席

落語 春雨や雷蔵 師匠

※入場無料です。ぜひお立ち
寄り下さい。



春雨や雷蔵師匠。特技はオカリナ?

◆お檀家様へお願い◆

お彼岸期間中、当院はお参りに来られる方で大変混み合います。来寺の際は、電車等公共の交通機関をご利用下さい。駐車場はありませんので、あらかじめご了承下さい。

お彼岸に寄せて

お彼岸の時期といえばお墓参りをしますが、皆さんは普段と同じようにお参りされますか? ご先祖さまや、先に往かれた身内の方に日々の報告、感謝をされるなどさまざまでしょう。

お彼岸の一週間は、年に二回の仏道修行の期間でもあります。この機会に、自分自身の日常を振り返ってみましょう。それぞれに反省すべきことがあると思います。

人は常に、ああしたい、こうしたいという自分本位の欲望、煩惱に振り回されたあげく自分を見失いがちです。しかし、そのようなこと以前に、今、自分がここにあることに感謝する、今日もご飯が食べられる家族の元気な顔が見られるという、一番身近な幸せを感じる、そのことが何よりも大切なのです。

そしてその幸せが、このご先祖さま方のお守りであることを、忘れてはなりません。

(成田)

仏教研究所だより

念仏と法話の会
六月十四日(金)

講師 静岡教区
善龍寺住職 向山瑞成上人

◆◆◆
法話「お盆と女性」についてお話し頂きました。次回も向山上人にお越し頂きます。どうぞお楽しみに。

法然上人
のここ

この秋、有楽町駅隣のよみうりホールで女性五人によるオープンセミナーが開かれる。タイトルは「そう、だから法然」。

昨年秋に開かれた同じタイトルのセミナーの第二弾で、主催は法然上人を祖師とする浄土宗だ。

どうしても閉鎖的になりやすい仏教行事だが、法然上人の大遠忌を控え、昨年同様の駅張りポスター、コンビニエンスストアでのチケット販売と、一般の人々に広く門戸を開いた公開セミナーで、法然上人を広く知ってもらおう意気込みが伝わってくる。

さて、今回特に注目したいのはその講演者である。

安藤優子、平野啓子といったテレビ組から文筆家の杉本苑子、さらに大学教授、そして善光寺大本願の住職と、そのすべてが女性なのである。

「なぜ、女性だけ？」

こんな声が聞こえてきそう。浄土宗に問い合わせたところ、講演内容はまだ詰まっていないのだが、あまり知られていないが、実は日本の女性にとって法然上人は特別な存在なのである。

なぜなら、法然上人は女人を女人として往生させた最初の人物だからである。

女人も
女人のままに往生する男性に
生まれ変わった女性

今でこそ、男女同権、賃金格差是正と男女差別がなくなりつつあるものの、女性は男性にかしづくものという風潮が長く続いていた。読者の皆さんの中にもお母さんや、お祖母さんから、そうした話を

聞いている方も少なくないだろう。

そうした女性への差別は婦人参政権や憲法で是正されてきた。明治に女性解放を説いた平塚らいてふさんや、マッカーサー司令部スタッフとして日本国憲法での女性や子供の権利を強く主張したベアテシロタさんは、現代の女性解放の功労者である。

そしてさらにさかのぼると女性も女性として往生できると説いた法然上人にたどりつく。口称念仏をよりどころとし浄土宗を開いた法然上人は、その限りなく広くやさしい人間観で、女性も包み込んだのである。

平安時代の仏教は貴族のためのものであった上に、当時の仏教では往生できるのは男性だけ。女性は一度男性に生まれ変わってから往生すると言われていたのである。

そう、女性は不浄なもの、穢れたものという存在だったのである。

法然上人と
女人往生

いま、女性は往生できないなどといったも誰も相手にしてくれないに違いない。しかし当時はこれが常識であ

あった。法然上人絵伝で有名だが、遊女が船上の法然上人に、こういう仕事をしていても救われるかと聞く場面がある。女性であることや、仕事の内容から、死後の往生を悲観していた当時の様子がよくわかる。

また、女性だけでなく、武士も法然上人のもとを訪れている。人を殺すことを仕事とするだけに、死後の世界には不安だらけだったに違いない。そうした武士たちも念仏を称えれば必ず往生できますよ、という法然上人の言葉に感激し、弟子になった武士も少なくない。

最近法然上人を日本の宗教改革者と捉えるようになってきている。それまでの特権階級のための仏教を庶民のための仏教にしたことが評価された結果だが、それは言葉を換えれば、人口の半分はいる女性から死後の不安を取り除いたことでもある。

女性も女性のままに往生する。こんな当たり前のことでも、そこに行き着くまでの背景は奥深いものがある。

この秋のセミナーで登壇される講演者がどんな法然上人を語ってくれるのか、楽しみである。

オープンセミナー「そう、だから法然」

平成14年10月26日 午後4時より

よみうりホール

入場料 1,000円

入場券 9月1日より全国のローソンにて販売

問い合わせ先 03-3436-3356

梅窓院を

囲む人々

今回は赤坂で幼少時代を過ごされ、戦争では志願兵となられた。さんご夫妻にご登場いただいた。檀家さんとしてのご要望までお聞きできた貴重なお話しとなった。

国立

さん

さん

なりました。」

さんは現在国立にお住まいの梅窓院のお檀家さん。滋賀の膳所からお父さんが上京、赤坂で呉服屋を始めた。

「当時の赤坂は商人の町でした。赤坂には花柳界があつたうえに、三つも連隊があつて御用商人の多い街でした。父の店も一つ木通り際でしたが、まわりも下駄屋、料亭、花屋、乾物屋、洗い張り屋さんとお店ばかり、医者も往診も人力車でした。しかもみんな地方から出てきた次男や三男が始めた店ばかりで、近所にはお年寄りが少なく、それこそ若い人の町でした。」

やっぱりお寺に行くと、お坊さんのありがたのお話しが聞きたくなりますね。

「大正四年、次男の徳蔵が一歳の時に亡くなり、父が梅窓院に入檀しました。」

その父も昭和二十年五月二十五日の空襲で亡くなりました。いわゆる東京大空襲で、母や姉は軍隊の防空壕に入つて助かったのですが、父は赤坂の警防団長という役目柄もあり、最後まで防空壕に入らず弁慶橋で火傷。その後亡く



お見せいただいた札所巡りの朱印帳。

して復学した大学を卒業し、銀行に就職する。時に二十七年、以来不動産会社へ出向する五十五年まで銀行マンとして働かれてきた。

娘さん二人はすでに嫁ぎ、今は奥さん。さんと二人暮しだ。札所めぐりが趣味という。さんが、ご自分の集めた朱印帳や掛け軸を見せてくれた。有名ではない札所が好きとはおっしゃったが、その数に驚いていると、さらに一冊のアルバムが。

その巻頭を飾る写真が下の少年飛行兵の時の一枚だ。さらにページをめくると、全国各地の観光地の写真が並ぶ。また奥様が集めてきた葉っぱや花の押し花がページを彩る。退職後に入った日本セカンドライフ協会で訪れた自衛隊施設での写真も並んでいる。

さんの心の中には、今も赤坂時代の思い出と戦争体験が息づいている。その赤坂時代の梅窓院の思い出も語ってくれた。「昔は自分の家の水でお墓を洗ってあげたものです。赤坂の家からお寺まで十五分。よく、やかに水を入れて持っていたものです。初詣もいつも梅窓院でした。」

お寺好きな。さんだけに梅窓院にもいくつかの要望があるという。

「お施餓鬼など、お寺の行

事には欠かさず出席させていたいでいます。お寺に行く人たちはお年寄りが多いですが、そうした人生経験豊かな人たちでも、なにか素晴らしい感銘を得るようなお話を聞きたいものです。昔はそれがありませんでした。また、お塔婆もできれば一本一本読み上げていただけると嬉しいですね。とはいえ、檀家数も多く時間がかかるのはわかりますが、できれば自分の名前が聞きたいのが人情ですから。」

戦中の志願から始まった。さんの前向きな人生は七十六歳の今も変わっていない。最後に今回の本堂復興についてお聞きした。

「住職は大きな決断をしたと思います。と同時に浄土宗の名刹梅窓院の檀家に、大きな誇りを感じます。やがて新築竣工の暁、よみがえる梅窓院の姿を見た時、檀家の皆さん共々、大いなる感動を得る事だと思えます。」

昭和十九年四月、陸軍飛行学校での一枚。

江戸三十三観音

第五回



第十四番

こんじょういん
神霊山 金乗院
 本尊 聖観世音菩薩

第十三番

大本山 護国寺
 本尊 如意輪観世音菩薩

浅草から目黒まで、ぐるり東京一周江戸観音札所巡りの旅。今回でシリーズ開始から一年を迎えました。旅も中盤にさしかかり、残りの札所はあと十八カ所。ここからは東京南西部を中心に回ります。



都電荒川線・学習院下駅／都営バス・学習院下から徒歩一分

目白通りから一步入った閑静な一角に構える金乗院。江戸時代、開基の永順上人が観音堂を建立したのが草創。ご本尊は金銅仏で高さ一寸八尺(五・五cm)、毘首羯磨作と伝えられ秘仏となっています。堂内には不動明王も安置され、関東三十六不動第十四番本尊とされています。

江戸の面影を今もなお残し続けている護国寺。天和元年、五大將軍徳川綱吉公の生母、桂昌院の発願により開山されました。境内には国の文化財に指定された建造物や美術工芸品が多く所有されています。なかでも近江の三井寺の客殿を移築した桃山時代建造の月光殿は、書院様式を伝える貴重な建物となっています。

地下鉄有楽町線・護国寺駅／都営バス護国寺前から徒歩一分



第十五番

光松山 放生寺
 本尊 聖観世音菩薩

学生で賑わう早稲田大学のすぐ傍にある放生寺は、江戸時代、穴八幡造営に力を尽くした良昌上人により開創されました。明治二年の社寺分離以後も、融通、虫封の霊場として信仰を集めています。冬至の日には「一陽来福」融通のお守りを授ける事でも大変有名です。



地下鉄東西線・早稲田駅から徒歩一分／都電荒川線・早稲田駅から徒歩十分

都電荒川線

都電荒川線は、荒川区の三ノ輪橋を起点に、東京の北西部をつないで早稲田まで走る路面電車。かつては都民の足として活躍していた都電ですが、現在は荒川線を残すのみとなっています。沿線には池袋のサンシャイン60、巣鴨のとげぬき地蔵、飛鳥山公園など、見どころも充実しているので、気になる停留所を見つけて途中下車を試してみるのも楽しいですね。「札所めぐりで一息つきたい。」そんなときには、路面電車でのんびり東京散策を。



早稲田駅にて。三ノ輪橋に向けて出発する荒川線。



第三十一番 未	第二十八番 未	第二十五番 未	第二二番 未	第十九番 未	第十六番 未	第十三番 護国寺	第十番 浄心寺	第七番 心城院	第四番 回向院	第一番 浅草寺
第三十二番 未	第二十九番 未	第二六番 未	第二三番 未	第二十番 未	第十七番 未	第十四番 金乗院	第十一番 圓乗寺	第八番 清林寺	第五番 大安楽寺	第二番 清水寺
第三十三番 未	第三十番 未	第二七番 未	第二四番 未	第二一番 未	第十八番 未	第十五番 放生寺	第十二番 傳通院	第九番 定泉寺	第六番 清水観音堂	第三番 大観音

江戸三十三観音御朱印

◇読者の広場◇
 お寺からお数珠を頂きましたが、どのように使えばいいのでしょうか。
 (調布市Kさん)

数珠の原語はジャパ(念誦)・マール(輪)の意であり、「おもいのたま」と訓ずる。また、数珠・誦数・呪珠とも記する。
 珠の数は一〇八顆を基本数とし、その二分の一、四分の一等の数とする。
 浄土宗では莊嚴・日課・百八・百万遍数珠の四種類がある。その中で檀信徒が常用するのは、宗独自の二連(環貫)数珠である、日課数珠である。
 《執持法》

- 合掌して両親指にかけて記子(房のついたもの)を手前に垂らす。
 - 礼拝の時は、左手の親指にかける。
 - 数珠繰りをするのは、顆の間に小珠のある輪を中指と人差し指にかけ、他輪を親指と人差し指に挟み、一称毎に一顆繰る。
 - 打ち物がない時は右手で繰り、木魚等打ち物がある時は左手で繰る。
- 《注意事項》
- 数珠は首にかけないこと。
 - 数珠はみだりに指ってはならないこと。
 - 腕輪と併用しないこと。
 - 数珠の珠は円形とし、扁平な珠は用いないこと。

(藁谷)

チャイナ梅の花

外苑西通店

湯葉と豆腐料理の梅の花から、新たに提案された中華懐石を楽しめるのがここ。旬の食材を活かし、一品ずつ美しく盛りつけた料理は、中華料理の想像を越えたヘルシーな味わいです。

季節毎に変わる会席や、大人数で取り分けて頂く大皿料理など、用途に合わせて選べるコースが豊富に揃います。店内はベージューを基調とした色合いで明るい雰囲気。目



TEL 03-5414-3299
 渋谷区神宮前3-1-30
 コンセプト青山ビルBF1
 営業時間 昼 11:00~15:00
 夜 17:00~20:00
 3800円以上の懐石より要予約
 年中無休



最大40名まで着席可能なテーブル席。



人気メニューの小手毬懐石。3800円でこの品数が嬉しい。

を引くのが窓際に設けられたペアシート。中庭にはアヒルが飼われ、可愛らしい姿を目当てにこの席を予約するリピーターも多いとか。居心地の良い空間で新たな中華をお楽しみ下さい。

『人生の記念日』特別プラン

梅の花では、法事を始め、慶事等の記念日にご利用の場合、お料理が一名様分無料になるキャンペーンを実施しています。ご予約の際は、ぜひお問い合わせ下さい。

青山俳壇

選者・『俳句朝日』顧問 大崎紀夫

かき氷／かたつむり

◎特選

ひとさじを息をつめて食ふかき氷

(評) かき氷を食べる最初の一瞬をうまく詠み止めた一句。かき氷について笑ふ乙女らよ

(評) ちよつとしたことも面白いがる幸せな年頃の少女たちの姿を彷彿とさせます。

朝月にでで虫一步あゆみ出す

(評) かたつむりの歩みに「一步」という言葉を使って、意表をつきました。

でで虫や鎌倉五山雨に濡れ

(評) 静かな雨の日の鎌倉をうまく詠みました。透きとほる身をのりだしてかたつむり

(評) 殻から身をのり出した一瞬に注目した一句。

◎選者詠

匙を描くときのあやふきかき氷 大崎紀夫

ウンポイントアドバイス

旧かな遣いの使い方・ワ行の「ゑ」

「植ゑる」「据ゑる」「飢ゑる」この三つを覚えておくと大変便利です。

投句募集

次回のテーマは「コスモス」「名月」です。11月10日を締切、来年1月発送の『新年号』にて発表させていただきます。住所、氏名、年齢をお書き添えの上、ご応募下さい。お待ちしております。

※港区南青山2-26-38
 梅窓院
 「青山俳壇」投句募集係

「やぶれ傘」会員募集
 青山俳壇の選者、大崎紀夫先生による俳句の会です。ご興味のある方は、左記の番号までご連絡ください。
 ※ウエップ編集室
 電話〇三(五三六八)一八七〇

食は命なり

第八回

武鈴子

食養研究家

血液をサラサラにする酢タマネギ

タマネギはどこの家庭の台所にもある身近な食材です。昔から民間では不眠症の薬として、きざんだタマネギを井に入れて枕元におき、その匂いをかきながら寝るとぐっすり眠れるといわれたり、タマネギの皮は煎じて飲めば血圧が下がるといわれて今日まで利用されてきました。

そのタマネギには血液をサラサラにしてガン、動脈硬化、高血圧、糖尿病、コレステロール値、中性脂肪を下げる効果などが解明されて注目されています。

そこで家庭で簡単にできて効果を高めるタマネギの作り方をご紹介します。

【酢タマネギ】

<材料>

タマネギ…中1個(200g)、酢…大きじ5杯(75ml)、天然塩…少々、ハチミツ…大きじ1杯半(約23g)

<作り方>

- ①タマネギは皮をむいてスライスし、容器に入れてそのまましばらく置く。(1時間位放置しておくとも薬効が高まる)
- ②鍋に酢と塩を入れて火にかけて、人肌ぐらいに温まったら火を止める。
- ③②にハチミツを入れて溶かし、①のタマネギにかけて混ぜ合わせる。(注：ハチミツは煮立たせると薬効が減少するので、火を止めてから加える)
- ④フタ付きの容器に移し入れ、フタをして冷蔵庫に保存する。1週間は保存できる。

<食べごろ>

酢タマネギは、作って3~4日ぐらいたってから食べると美味しく食べられる。

<食べ方>

小鉢に半分ぐらいを朝夕、食事のときに食べる。

・ 行 ・ 事 ・ 報 ・ 告 ・



郡上おどり in 青山

六月八日・九日 はさま 間組駐車場
 今年で九回目を迎えた郡上おどり in 青山。今年には本堂工事中のため、間組駐車場にて行われました。

毎年会場内で注目を集めるのが、踊りの輪の中から踊りの上手な方だけに与えられる「免許状」の授与。その免許状を目指した郡上踊りファンが、本場の郡上八幡の人たちに負けない熱の入った踊りで、連日賑わいました。



会場は郡上踊りのファンで大賑わい。

孟蘭盆会法要

七月十三日 仮本堂にて
 施餓鬼会大法要
 七月二十一日 仮本堂にて

両日ともに猛暑の中、多くの檀家様にお集まり頂き、法要が執り行われました。

当院詠唱会による詠唱奉納も行われ、和やかな雰囲気となりました。

法要後には住職から、来年度完成予定の新本堂について建築経過が説明されました。

孟蘭盆会法要にて。
 お焼香をする檀家の皆さん。



お施餓鬼の半齋供養の様子。供養のために靈膳を供えます。

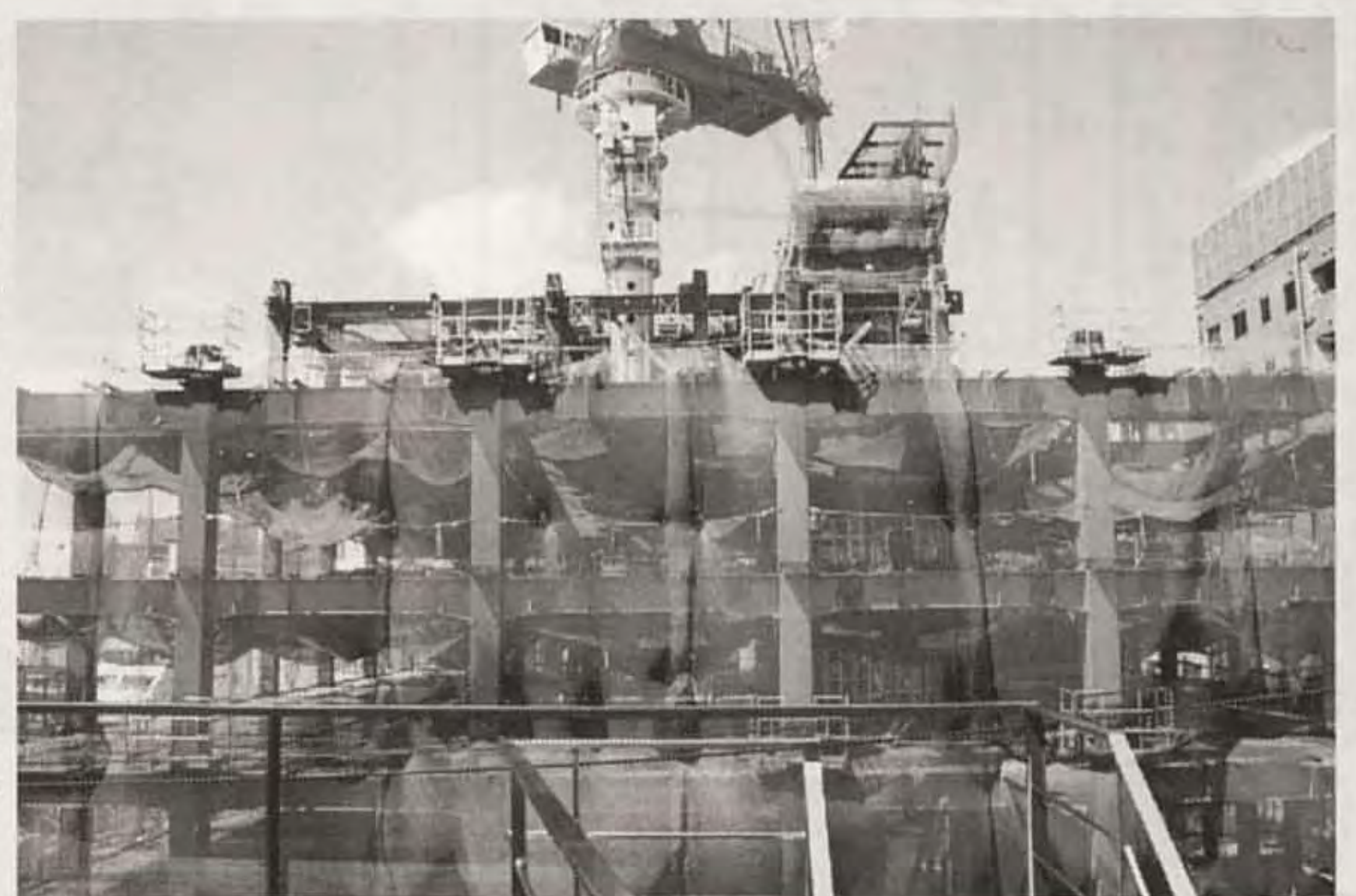


仮本堂の為、ご不便ご迷惑をお掛け致しました。



◆梅窓院だより◆ 復興事業新着情報

新本堂建設地 (8月15日撮影)



来寺される皆様へ

- ・ 工事中の為、只今駐車場はありません。車での来寺はご遠慮下さい。
- ・ 墓地にガラス等の割物を置くのは大変危険ですのでおやめ下さい。

◆輪袈裟販売の御案内◆

梅窓院の輪袈裟を販売しております。ご法要や行事の際にお持ちください。当院受付にてお求めいただけます。



輪袈裟セット
 (経本・数珠・専用袋付き)
 頒価一万円

